

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)

「ヒライ信」古代文字 (神代文字)



落語歳時記シリーズ 2月の落語「子ほめ」

「褒め言葉ひとつ知らずに歳をとり」なんてえ川柳がありますが・・・人を褒める、世辞を言うというのは、なかなか難しいもんで・・・

「隠居さんところにタダの酒があるんですってねえ・・・飲ましてくださいよ。

「オイオイ、ハつつあん、世の中にタダの酒なんてえものはない。うちにあるのは「灘の酒」だ。ひとに何かごちそうになろうと思ったら世辞の一つも言えなくちゃいけない」「へーえ、何です？世辞ってえのは?」「相手がいい気持ちになるようなことを言うんだなあ・・・例えば、知ってる人に会ったら『しばらくお見えになりませんでした、どちらかへお出かけで?』とか『お顔の色がお黒くなりました。しかし、あなたなどは元がお白いから、故郷の水で洗えば元通り白くなります。商売繁盛、旦那の信用も厚くなる・・・まことにめでたいことでございます』・・・と。

「あー、なるほど！だけど、それで感じないヤツはどうします?」

「そういう時は、相手の歳をきく『失礼でございますが、あなたのお歳はおいくつで?。先方が45とでも言ったら、45にしてはお若く見える。どう見ても厄そこそこでございますと。「ああ、なるほど・・・ だけど運良く45のヤツが来りゃいいけど、50の人が来たら?」「そういう時は、45~6と、3つ4つ若く言う」「じゃ60は?」「55~6だ」「70は?」「65~6だよ。少しづつ若く言やあいいんだ」「じゃあ、子供をほめるときは・・・

「この子はあなたのお子さんですか?。大層福々しいお顔でございます。先年お亡くなりになったご隠居様に似て、長命の相がおありになる。梅檀は双葉より芳しく、蛇は寸にしてその気を表わす。私もこういうお子さんにあやかりたい、あやかりたい・・・』と・・・それを、ハつつあん実行してみるが・・・



■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「プロに学ぶ小噺の話し方」「親子酒」

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も **謎かけ** で、お題は「富士山」「節分」とかけて

次回は2024年3月4日(月)「桃の節句・ひな祭り」「卒業」